

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	第8回 河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会
2 開催日時	平成29年2月27日(月) 14時から
3 開催場所	市役所501会議室
4 会議の概要	◎案件 「第7回委員会での議事について」 「連携と体制整備の方針について(案)」 「事業計画について(案)」
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	1人
7 問い合わせ先	(担当課名) 生涯学習部 ふるさと文化財課 (内線749)
8 その他	特になし

\*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

第8回河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会議事録

日 時 : 平成29年2月27日(月)午後2時から午後4時  
場 所 : 河内長野市役所 5階 501会議室  
出席委員 : 樽野 博幸 副委員長  
長田 寛康 委員  
小栗栖 健治 委員  
橋寺 知子 委員  
佐久間 康富 委員  
上田 霊宣 委員  
鵜飼 武 委員  
星住 哲二 委員  
田中 伸之 委員  
緒方 博 委員  
太口 智裕 委員  
山田 耕司 委員  
島田 俊彦 委員

出席オブザーバー : 神谷 悠美 大阪府教育庁文化財保護課

事務局側出席者 : 橋本 亨 河内長野市教育委員会生涯学習部長  
井上 剛一 生涯学習部ふるさと文化財課長  
ふるさと文化財課太田係長・細木副主査

案 件 : 「第7回委員会での議事について」  
「連携と体制整備の方針について(案)」  
「事業計画について(案)」

〈部長挨拶〉

【開会】

## 説明 1

〈事務局説明〉「第7回委員会での議事について」

～前回の課題整理のため、意見等なし～

## 説明 2

〈事務局説明〉「連携と体制整備の方針について（案）」

佐久間委員：前回は掲げられていた連携の在り方が今回では項目立てて整理されている。計画の位置づけ、役割分担、今後のスケジュール等どこまで作り込んでいくのかを今一度示してほしい。

太田係長：本計画の位置づけに関しては、歴史文化基本構想に基づく事業実施計画として、担当課だけではなく市全体で文化財を保存し活用していくための計画である。スケジュールについては、次回委員会で事業計画とあわせた年次計画を示す予定である。これまで文化財の側面から全庁共通の計画がなかったため、全庁共通の計画として策定するため、必要となる各課との役割分担などを書き込む必要がある。

小栗栖委員：裾野が広い大きな計画という印象である。郷土歴史学習については、小・中学校だけではなく、高校にも広げていくとのことだが、現状、小学校での郷土学習はどのような取り組みを行っているのか？

太田係長：現状はふるさと学のテキストを使用して、学校側から要望のあった時代について授業を行っている。しかし、このテキストは、市域を対象とし、機械的に時代別の記述がなされており、各小学校にとっては必ずしも身近な文化財や歴史を知ることのできるものになっていない。例えば、学校の歴史の授業の進捗に合わせて事業実施をしているため、小学校区に弥生時代の遺跡がないにも関わらず、弥生文化の授業を実施する場合もある。今後は市全般の歴史学習だけではなく、小学校区に密着した歴史学習を学校側と連携して進めていきたい。

小栗栖委員：姫路の小学校では校区ごとに、郷土史家がいる。小学生がその人の元へ行き、郷土史を教えてもらっている。自分達の身近な歴史を学ぶことは非常に大切な取り組みである。

太田係長：本市でもいろいろな方法で身近な歴史を学ぶ機会を増やしていきたい。

長田委員：市民は前を向いて進んでいるので、「足元に宝」があることに気づかない。豊かな宝がある土地に住んでいるということに気づかされるような施策、喜びを実感できるようなまちづくりを今後お願いしたい。

井上課長：小栗栖委員の質問について、郷土歴史学習については、小5、小6、中1で11時間を特別に割り当てている。

太田係長：本市でも、鶯飼委員のように、地域の方が歴史を教えるという取り組みが一部では行われている。

樽野副委員長：テーマ型市民団体との連携とあるが、自然環境保全に関わる団体からの相談を受けた経験から、市には自然環境を扱う専門職がないので、意見をどこに持っていけばいいのかわからないという印象を受けた。今後、様々な団体との関わりがでてくる中で、どこが窓口になるのか考える必要がある。

太田係長：樹木のことは、公園緑化協会の樹木員の方に相談したり、森林や環境保全については、樽野副委員長や農林課へ相談したりしているが、市民が気軽に相談できる窓口がないのが現状である。

樽野副委員長：こちら側から積極的に声をかけていく必要があるのかもしれない。

橋本部長：市民からの相談については、都市魅力戦略課が窓口となり、各担当部署へつなぐという体制をとっている。

星住委員：歴史文化基本構想を推進していく体制として、まず市役所の庁内で横の連携をとり、自治会や団体など地域で出てきた意見や提案などを市役所関係部署で共有することが大切である。学校教育の中で出てくる話は文化財担当課で取りまとめ、他部局の計画策定段階等が出てくる話は文化財担当課としてきちんと情報をいれてもらい、情報の共有化を図っていくべきである。

田中委員：富田林土木事務所の地域支援・企画課では狭山地区整備計画や竹ノ内街道整備計画等に携わった経験があるので、その経験を活かして連携することは可能である。

### 説明 3

〈事務局説明〉「事業計画について（案）」

小栗栖委員：充実した内容となっているので、すべて実現できれば非常に良い。平成29年度完成予定とあるが、保存活用計画策定後、何年程で実現させていくのか？

太田係長：現時点では平成29年度中に策定予定だが、日本遺産の関係で平成29年度中になるか、それ以降になるか不透明である。この件は別途お諮りしたい。  
終了年次については、総合計画に合わせた平成37年度までの計画となる。次回委員会で改めてスケジュールを提示したい。

佐久間委員：今年度は学生と一緒に流谷の棚田の水路、石垣に着目した景観調査を実施した。研究として、水路と土地利用の関係から人口が減少しても景観として優先的に残す部分について考察した。棚田の石垣については、流谷での実践を試みようとして、石積みのワークショップにも参加し、石積みのコツも学んだ。実践に向けて地元と相談したが、技術保持者がみつかっていない。今後、地元や市と相談しながら、次につなげていきたい。

太田係長：佐久間委員と生徒さんには様々な調査協力を頂いている。

佐久間委員：学生と流谷の勧請縄かけも見学した。最初は地元の方が中心となって取組み、観光ボランティアの方は見ているだけの状態であったが、徐々にお互いが混じり合っていく瞬間があり、テーマ型市民団体が地域型市民団体を支える可能性を感じた。テーマ型市民団体を間に置き、子・孫世代につなげていく仕掛けづくりができればと思う。

太田係長：川上神社の稚児相撲では、この祭礼に合わせて孫世代が地域へ戻ってくる。祭礼を通じて、地域とのつながりを形成しているといえるが、市内の祭礼すべてにあてはまる訳ではないので、広げていきたい。

鶴飼委員：河内長野にはハイキングに来る人が多いので、交通機関と連携して、行事案内を駅のホームなどに掲示し、参加者を募ってはどうか。岩瀬で毎年開催している祭礼は、予め近隣の自治会に案内を配布し周知することで、多くの来訪者を得ている。行事を前もって知らせることは一つの手段である。

樽野委員：良い景観が残っている所には、様々な動植物が生息している。河内長野は都市

近郊の自然ですごく良いものがみられる。景観が残っている場所には祭礼も残っている場合が多く、自然愛好家にも文化的行事に興味をもってもらえると思う。異なるテーマで活動している人達にも知らせることで、興味をもってもらえる可能性がある。

太田係長：観光ボランティア、文化財ボランティア以外にも幅広く周知していきたい。

鵜飼委員：まちづくり協議会では、景観のPRに力点を置いている。都会の人に来てもらえるように、他市の駅にチラシを設置したり、天見マップを小学生に持ち帰ってもらい他に配布してもらったりしている。

長田委員：学生は資格志向であるので、履歴書に記載できるような資格をつくってはどうか。文化財検定と限定せずに、河内長野遺産検定という名称の方が良い。遺産とすると範囲が幅広くなるので、郷土歴史学習とリンクした検定用のテキストを作成し、勉強しやすい環境づくりも必要である。

橋寺委員：悉皆調査の近代遺産の範囲は？

太田係長：近代遺産の定義が現状では漠然としているので、次回委員会までには絞り込んでいきたい。

橋寺委員：近代化遺産ではないと想定する。中世の歴史が充実しているのに、近代が薄まってしまいが、道路などの交通遺産も全くない訳ではないので、近代についても長期的に調査をしないといけない。モノがなければ、ソフト面も含めていくと良い。実際に見聞きした現役世代に調査をすることで市民に興味をもってもらいやすくなるのではないかな。調査=専門家となってしまいが、市民と連携した調査方法もあると思う。

太田係長：近代の特徴的な遺産として、楠木公顕彰が挙げられる。

橋寺委員：当時は普通だったことが、今は全く知られていないということがある。地域的な部分を取り上げると、より深く河内長野の歴史がみえてくる。

星住委員：文化財の活用というと、文化財を壊していくイメージがあるので、そうではなく、文化財の活用が保存・継承につながるということを明確にすることが大切である。活用事業は市が主体となっていく場合が多いが、地元団体に行政として何を支援していけば、継承につながっていくのかも考える必要がある。河内長野検定については、どの地域も年々右肩下がりとなっているので、実施するとすれば、隔年の方が価値は上がる。また、河内

長野には秋山信子さんという衣裳人形の人間国宝がおられる。無形文化財の活用についても検討していくべきである。

田中委員：近代遺産については、狭山池博物館などで展示が行われているので、調べていけば様々なモノがあると思う。活用・保存・維持を行うにはお金が必要であるため、お客さんに市内でお金を落として頂けるような仕組みづくりを検討するべきである。

太田係長：計画案の中で所有者・地域にもメリットがあるような活用事業の実施との記載をしているが、経済的効果や保存のためにはお金が必要なので、この辺りとどうリンクしていくのかを書き込んでいきたい。

**【その他】**

なし

**【閉会】**